

すて〜じ通信



発行 平成26年3月14日 第11号

〒052-0014

北海道伊達市舟岡町334番地9 あい・ぶらざ1F

社会福祉法人北海道社会福祉事業団

胆振日高障がい者就業・生活支援センター すて〜じ

Tel / 0142-82-3930 fax / 0142-82-3933

E-mail / stage@dofukuji.or.jp

障がい者就業サポーター派遣事業が終了しました。

今年度、北海道経済部委託事業として受託しました「障がい者就業サポーター派遣事業」が2月末をもて事業を完了しました。この事業は、障がい者雇用の経験のない企業の皆さんに障がいのある方を短期間、雇用体験をしていただき、事業主・従業員及び障がいのある方相互の雇用に関する不安や課題の解消を図り、障がい者雇用のきっかけ作りをすること、雇用体験実施期間中は「障がい者就業サポーター」が職場に同行し、障がい特性を踏まえた雇用管理等に関するアドバイスを行うことが事業の大きな柱となっており、「障がい者雇用体験」参加企業を広く募集してきました。雇用体験企業を募集すると一言で言っても実際に受け入れていただける企業は見つからず、配置したサポーターも日々企業を回ってPRしてきましたが、当初の計画値には届きませんでした。この事業をとおして様々な職種の企業を訪問し事業主さんから障がい者雇用についてご意見をいただきました。その中で多かった意見について、①障がい者に適した作業がない②安全管理、衛生管理に不安がある③通勤手段の確保が挙げられていました。これらのことから、今後受け入れ態勢の整備、障がい特性に合わせた作業の掘り起こしを企業で検討或いは支援者側からの提案が必要となってくる。制度的には障がい者雇用機会が広げられる一方、企業側の障がい者雇用管理等のノウハウが不足していることも障がい者雇用を足踏みさせている要因のひとつではないかと思えます。今回の事業を単年度で終わらせないよう、今後も企業に対して障がい者雇用のPR強化、企業と支援機関との連携を密にし、更なる雇用拡大の足掛かりに出来ればと考えています。

～就業サポーターの田中さんから～

障がい者福祉の仕事をするのは人生の中で初めてでした。意味も分からぬ福祉用語が飛び交い、制度についても最初は上手く説明することが出来ず、こんなんでも一年間務まるのかなと不安で仕方ありませんでしたが、訪問させていただいた事業主さん、企業の皆様には快くこの未熟者を受け入れて下さり、皆様には大変お世話になりありがとうございました。この経験をこれからの人生の中で活かしていきたいと考えております。この先どのような仕事に就くのかは決まっておりませんが、充電して再出発したいと思っております。

☆三胆振日高障がい者就労支援研修会を開催致しました。☆三

さる2月22日（土曜日）、登別市民会館大会議室において「平成25年度胆振日高障がい者就労支援研修会」を開催致しました。今回の研修会は、地域での障がい者雇用の拡大を狙いとして、障がい者の社会的自立を目的に活動している室蘭・登別心身障がい者職親会、西胆振心身障がい者職親会、それに当センター事業の障がい者雇用支援地域合同会議の共催で開催しました。当日は胆振日高圏域から就労支援事業所、行政機関、雇用事業所の方々等、約60名の参加をいただきました。今年の研修会は、全日本手をつなぐ育成会主催で開催されました「平成25年度働く知的障害者からのメッセージ発信事業（厚生労働省委託事業）」が当研修会の翌日に開催されるということもあり、当日の講師の方（裏面に続きます）

にお願いし当研修会でもお話をいただくこととなりました。室蘭・登別心身障がい者職親会岩浅会長より開会の挨拶をいただき早速基調講演に入らせていただきました。今年度の研修会は『障がいのある人たちの働きはじめる、働き続けるを支える』をテーマに支援者、雇用者、当事者の皆様からお話をおきしました。お忙しい中研修会にご参加いただいた皆様、業務多忙の中お時間を割いてお引き受け下さいました講師の皆様ありがとうございました、この場をお借りしてお礼申し上げます。今回の研修会を通して就労支援の輪が広がり、より身近な地域で障がい者雇用の取り組みが進んでいくきっかけになればと思います。当日の研修内容について簡単にご紹介させていただきます

◇基調講演◇ 『障がいのある人たちの就労支援と生活支援』

講演者 障がい者就業・生活支援センターわくわく支援ワーカー 佐野 和明 氏
阿波製紙株式会社 岩花 有香 氏
マルワ環境株式会社 三木 隆嘉 氏

安心して働くための支援のあり方について、当事者本人が思うことを佐野様のリードでお話をお聞きしました。本人の暮らしや人生に寄り添ってくれる支援、みんなが自分の夢を持てるような支援、みんなが夢の実現のために頑張れる支援を当事者は求めています。私たちに必要なものは「支援者や支援機関が中心の人間関係ではなく、仲間や街の人の関わりが最も力になる」と言う言葉が印象的でした。

◇実践報告◇ 『障がいのある人達の雇用を通して思うこと』

報告者 室蘭パルス電子株式会社代表取締役工場長 薄根 弘 氏
株式会社中井英策商店代表取締役社長 及川 昌弘 氏

お二方のお話で共通していたのは、障がいがあっても仕事は出来る、障がいがあっても永く働ける、要は受け入れる側の理解と工夫次第であるということ。

◇体験発表◇ 『自立への挑戦ー仕事を通して思うことー』

発表者 阿波製紙株式会社 岩花 有香 氏
マルワ環境株式会社 三木 隆嘉 氏
特定非営利活動法人ふれんず 森本かおり 氏

障がい当事者のお三方から、自立への挑戦をテーマにお話いただきました。簡単には自立は出来ない。障がいがあるが故の辛い過去、障がい者に対する冷ややかな社会。でも、まだまだ捨てたもんじゃない。「本人の働く意思と良い支援があれば働く人はもっとおる！日本中に夢が広がる」

～こんな内容の研修会を企画して欲しい、講師にはこの方を呼んで欲しい等、研修会に関するご意見ご要望がありましたらお知らせ下さい。



※当事者が特定出来ないよう一部写真を加工しております。

～3月の予定～

今年最後の第4回「在職者の集い」を開催します

3月27日(木)午後7時から～地域+2 in poco a poco